

機関番号：64401

研究種目：基盤研究（S）

研究期間：2006～2010

課題番号：18102001

研究課題名（和文） アラビアンナイトの形成過程とオリエンタリズム的文学空間創出  
メカニズムの解明研究課題名（英文） Studies on the history of the *Arabian Nights* and its influence upon  
the literary genesis of Orientalism

研究代表者

西尾 哲夫（NISHIO TETSUO）

国立民族学博物館・研究戦略センター・教授

研究者番号：90221473

研究成果の概要（和文）：中世イスラーム社会研究の第一級資料としてのアラビアンナイトが持つ社会文化史的意義に着目し、世界に散在する文献資料の発掘、整理、分析を通して中東世界における同物語集の原型、社会的受容、変遷を究明し、さらに欧米・日本におけるアラビアンナイトの受容、中東イスラーム世界における再受容について分析することによって、アラビアンナイトを媒介とした文明的往還による文明間相互イメージの形成メカニズムを解明した。

研究成果の概要（英文）：Focusing on the cultural and social values of the *Arabian Nights* in the Arab-Islamic history, we have investigated an original form of this story collection in the Middle East through the excavation and arrangement of the manuscript material that lies scattered in the world, with the result that our discussion about the reception of the *Arabian Nights* in Europe and Japan and its re-introduction in the Middle East leads to the understanding of the formative mechanism of the mutual image between the civilizations.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	13,900,000	4,170,000	18,070,000
2007 年度	12,100,000	3,630,000	15,730,000
2008 年度	12,000,000	3,600,000	15,600,000
2009 年度	12,000,000	3,600,000	15,600,000
2010 年度	11,800,000	3,540,000	15,340,000
総計	61,800,000	18,540,000	80,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：その他の各国文学・アラブ文学

## 1. 研究開始当初の背景

アラビアンナイト（千一夜物語）は西暦 9～10 世紀ごろのバグダードで原型が成立し、15～16 世紀ごろのカイロでほぼ完成した。中東では忘れられたが、18 世紀のフランス人東洋学者アントワヌ・ガランによるフランス語訳を通して世界文学となった。ヨーロッパ紹介後のアラビアンナイトは、オリエンタリズムという巨大な文化潮流によって重大な質的变化を経験し、現代における一般的中東イ

メージ構築への地下水脈としての役割を果たしてきた。

## 2. 研究の目的

これまで等閑視されてきた中世イスラーム社会研究の第一級資料としてのアラビアンナイトが持つ社会文化史的意義に着目し、世界に散在する種々の文献資料の発掘、整理、分析を通して中東世界における同物語集の原型、社会的受容、変遷を究明するとともに、

中世イスラーム文化の基部構造を再構築する。具体的には、(1) 中東イスラーム世界におけるガラン訳アラビアンナイト出現以前(17世紀以前)のアラビアンナイト形成過程、(2) ガラン訳アラビアンナイト出現以降(18世紀以降)のアラビアンナイト受容による文明間イメージ形成と文学テキスト生成の相互作用を明らかにする。

### 3. 研究の方法

(1) 中東イスラーム世界におけるアラビアンナイト形成過程の解明のための研究作業

#### ① 形成過程分析のための基礎データ作成

- ・写本書誌情報データベース作成
- ・アラビア語原典コーパスとアラブ民衆文化語彙電子辞書の作成
- ・物語モチーフ索引の作成

#### ② アラビアンナイト写本の海外調査

(2) アラビアンナイト受容による文明間イメージ形成と文学テキスト生成の相互作用の解明のための研究作業

#### ① 受容過程分析のための基礎データ作成

- ・欧米・中東・日本におけるアラビアンナイト出版書誌情報データベース作成

#### ② 受容の海外調査ならびに国内調査

(3) 研究情報の共有化および研究総括のための国際ワークショップと国際シンポジウムの開催

### 4. 研究成果

(1) 写本に関する海外調査と書誌情報データベース作成： 欧米の大学や図書館に所蔵される写本のリストを作成し、形態や内容について現地調査をおこなった。中東地域についてはトルコ、チュニジア、エジプト、モロッコ、オマーン、さらにインドで調査をおこなった。全写本をデジタル化し、写本データベースを作成した。海外の協力者と共同で本研究がおこなったアラビアンナイト写本の網羅的調査ならびにデータベース化によって、今後の写本研究の基盤が整備されただけでなく、重要な写本の新発見等も含めて写本伝承や本文形成について新たな知見が得られており、アラビアンナイト写本研究に重要な貢献をした。例えばオックスフォード大学図書館では後期異本として重要なモンタギュー写本の物語写本断片を発見した。同断片は本来モンタギュー写本の一部を形成し、図書館所蔵になるまでの過程で当時のアラビアンナイト観に従って研究者が当該写本の組み合わせを改竄したことを明らかにした。この



発見は欧米所蔵写本群の性格の見直しと写本形成史の従来の考え方の変更をせまるものである。マンチェスター大学図書館所蔵の写本が挿絵入りであることを「再」発見した(図は同写本の fol. 255b)。ガラン以前の挿絵入り写本としては初めてのもので、極めて重要な発見と言える。

現存する写本の網羅的調査とそのデータベース化は、19世紀末に主としてフランス国内所蔵写本を中心に行われて以来の画期的研究事業であるが、今回の調査では新発見が相次いでおり、原典テキスト形成過程に関する従来の定説を書きかえる可能性が非常に高い。

(2) 原典コーパスとアラブ民衆文化語彙電子辞書の作成： カルカット第2版の全文テキストデータベースを構築し、さらにカルカット第2版全体のPDF化テキストを並列して利用できるようにし、検索されたアラビア文字列に関して電子テキストデータおよびカルカット第2版印刷本の該当箇所PDFデータがウェブ上で閲覧・検索できるようにした、「アラビアンナイトデータベース検索サイト」(<http://www.dhii.jp/ANs/index.html>)を構築し、内外の研究者に公開した。同検索システムは、アラビアンナイト研究に対して極めて有効な研究ツールとなるだけでなく、中世イスラーム社会史研究へ重要な資料分析ツールとなる。アラブ民衆文化語彙辞書の作成については、



カルカット第二版日本語訳による文化語彙リストをもとにアラビア語原典テキストに対して文化語彙インデックスを完了した。(図はアラビア語で「シンドバード」の名前を検索した画面)

(3) 物語モチーフ索引の作成： 海外研究協力者であるシロンバル博士より提供された、アラビアンナイト物語モチーフ索引「Esquisse d' un index des motifs dans les mille et une nuits」を改訂・増補した後、データベース化のための英語訳を終了し、刊行にむけての編集作業をおこなった。また物語モチーフ索引作成ならびに物語構造の比較分析のための研究補助資料として、ガラン版の日本語訳を電子出版した。本研究で作成した物語モチーフ索引は、アラビアンナイト本文分析のための基本ツールであり、今後このモチーフ索引をHP上で研究者に公開することで、世界の物語との比較分析が飛躍的に促進される。

(4) 欧米・中東・日本における出版書誌情報データベース作成： 国際的にも有数のコレクションである国立民族学博物館所蔵「ア

ラビアンナイト・コレクション」の書誌情報データベースを作成し、内外の研究者に公開した。欧米において 18 世紀に出版されたアラビアンナイトの網羅的な書誌目録を作成した。日本における受容分析の一環として、明治以降のアラビアンナイト出版物の収集ならびに書誌情報作成をおこなった。

研究の一環で収集した資料として国立民族学博物館が所蔵するアラビアンナイト・コレクションは、世界一級のものである。海外共同研究者は、同コレクションを活用した研究書を海外で刊行しており、国内外の大学院生も関連する研究題目による博士論文の執筆のためにこれを利用している。このように、国立民族学博物館ならびに同館を中核として展開している本研究組織は、当該研究の中心的な国際的センターとして十分に機能している。

(5) 挿絵画像データベース作成：国立民族学博物館所蔵「アラビアンナイト・コレクション」について、挿絵等に関する画像データベースを作成した。画像の著作権との関係から同データベースの一般公開はまだであるが、研究者には利用可能となっている。同コレクションは国際的にも認知されており、作成中の画像データベースを利用して海外研究協力者のシロンバル博士が有名なプレイヤッド叢書から『図説千一夜』を出版した。また同コレクションの画像を中心に豪華挿絵入りアラビアンナイト画集がパリの出版社から刊行される。

(6) 欧米・中東・日本におけるアラビアンナイト受容に関する調査：

①アラビアンナイトの仏訳者として名高いマルドリユスが遺品として残した関連資料に対して、遺族との 10 年にわたる交渉の結果、調査許可を得ることができ、膨大な資料の目録作成とデジタル保存化の作業をおこなった。目録化されたデータをもとに、『アラビアンナイトのフランス語翻訳者、ジョセフ・シャルル・マルドリユスの遺贈コレクション目録』をフランスの出版社より刊行する予定である。マルドリユス遺贈コレクションの中には、翻訳の自筆原稿をはじめ、執筆に利用した文献やノート類、未発表の原稿、さらには私的なドキュメントや著名な文人から私信が多数含まれている。これらの未公開資料の目録化・デジタル化による調査・分析は、アラビアンナイト研究史上で画期的なものとなるだけでなく、フランス文学研究や中東地域研究全般にも大きく貢献する。

②コモロ諸島を中心とするインド洋西部地域にてアラビアンナイト類話を採集することができ、インド起源とされてきたアラビアンナイト系の物語が現在でもインド洋地域に分布していることが新たに確認できた。同調査の成果はモチーフ索引と翻訳を付し

た民話集として現地の研究者と共同で現地出版社より刊行する予定である。アラビアンナイトの起源に関してインド説話との関係が従来から議論されてきたが、インド洋地域における民話調査の結果、現在でも多くの類話が流布していることが判明した。この調査はアラビアンナイト研究はもちろんのこと、国際的な民話研究にも大きく寄与する。

③北アフリカに伝播、より古い枠形式をもつ「百一夜物語」に関する調査をおこない、現在の刊本には未利用の写本資料を入手することができた。これをもとに枠物語形式の新たな分析が可能となった。なお同資料の日本語訳が出版される。

④日本における受容についても、特に明治・昭和前期の欧米文学における受容や、戦後日本における翻訳・研究・批評・文学・映画・舞台等の面での受容に関して詳細な書誌学的研究を国内調査に基づきおこなった。中東地域については、アラビアンナイト研究の現状を分析するためにアラビア語研究文献を収集した。特筆すべきこととして、江戸時代に舶来したラクダに関する文献ならびに図版資料を網羅的に調査し、その研究成果に基づき、国立民族学博物館の西アジア常設展示リニューアルに際して見世物興行の詳細な日程と地図を作成、展示した。

(7) 国内および海外での国際研究集会：「アラビアンナイト写本とテキスト形成の修辞学ワークショップ」と題した国際ワークショップを 2 回開催した。平成 19 年度は、フランスにおけるアラビアンナイト研究の第一人者である M・シロンバル博士を招へいし、アラビアンナイト写本とテキスト形成をめぐる最近の研究動向と問題点について討論した。平成 20 年度は、コモロ民話専門家の M・アラウイー博士（国立レユニオン高等美術学校）を招へいし、インド洋地域での類話分布について討論した。

研究分担者の青柳と鷺見がそれぞれオックスフォード大学ラウンドテーブルならびにカリフォルニア州立大学でのアメリカ比較文学会年次大会に招待され講演した。また西尾がアブダビで開催された国際シンポジウムに招待されて講演した。それぞれの報告は会議の論文集として出版予定である。

共同研究の総括として国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」（平成 22 年 12 月 18～19 日）を開催した。第 1 セッション：テキスト伝承の形態、第 2 セッション：テキスト伝承と物語構造、第 3 セッション：テキスト伝承と文化的変容に分かれて、海外からの招へい研究者を含めて発表がおこなわれ、従来の翻訳や研究そのものが当時のアラビアンナイト観、ひいてはオリエンタリズムという時代精神にいかにか影響を受けていたかを明らかにした。同シンポジウムの

成果は日本語論集ならびに欧文論集の双方で公刊する予定である。

(8) アラビアンナイトとオリエンタリズムの文学空間の解明：上記のような写本調査や原典テキストデータベース、物語モチーフ索引データベース等の作成により研究基盤が整いつつあるとともに、受容過程の分析を通じて、従来の原典分類・解釈それに基づく翻訳や研究が当時のアラビアンナイト観、ひいてはオリエンタリズムという時代精神にいかん影響を受けていたかが明らかになりつつある。『アラビアンナイト』(岩波新書)と『アラビアンナイトとオリエンタリズム』(NHK ブックス)で、アラビアンナイトとオリエンタリズムの文学空間という問題系について議論した。『アラブの音文化』の中では同じ問題意識のもと「アラブ音楽」という文化伝統がいかに創出されてきたかを議論した。なお同書は新しい分析概念による共同研究であることが高く評価され、東洋音楽学会平成22年度第28回田邊尚雄賞を受賞した。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計122件)

西尾哲夫 単著 印刷中 “The Takarazuka Revue and the Fantasy of “Arabia” in Japan”、P.F. Kennedy & M. Warner eds. *The Arabian Nights: Encounters and Translations in Literature and the Arts*. New York University Press. 査読有

永崎研宣、中道静香 共著 2011年 『アラビアンナイト・カルカッタ第2版』アラビア語テキストデータベースの構築とその利用『情報処理学会研究報告』2011-CH-89、p. 1~15。査読有

杉田英明 単著 2010年 「動く島の秘密—巨魚伝説の東西伝播」『外国語研究紀要』第14号、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部、pp. 1~35。査読有

西尾哲夫 単著 2009年 『コーラン(クルアーン)』とイスラム共同体(ウンマ) —儀礼的音声言語の社会的機能に関する言語情報学的考察— 笹原亮二編『口頭伝承と文字文化—文字の民俗学 声の歴史学—』京都：思文閣出版、pp. 357~379。査読有

西尾哲夫 単著 2009年 「アラビアンナイトとオリエンタリズム—科学研究費補助金：アラビアンナイトの形成過程とオリエンタリズムの文学空間創出メカニズムの解明」『民博通信』124号、pp. 18~19。

杉田英明 単著 2009年 「戦後日本の『アラビアン・ナイト』(続)—文学作品と戯曲・映画を中心に」『外国語研究紀要』第13号、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部、pp. 1~104。査読有

杉田英明 単著 2009年 「お喋り床屋の系譜—中東・ヨーロッパ文学における古典の継承と変容」『ODYSSEUS』第13号、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻、pp. 1~32。

鷺見朗子 単著 2009年 “Sensibility and Synaesthesia: Ibn al-Rumi’s Singing Slave-Girl”、Suzanne Stetkevych ed, *Early Islamic Poetry and Poetics*. London: Ashgate Publishing Limited、pp. 241~270。査読有

杉田英明 単著 2008年 「戦後日本の『アラビアン・ナイト』—翻訳と研究・批評を中心に」『外国語研究紀要』第12号、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部、pp. 1~60。査読有

小田淳一 単著 2008年 「映像編集の修辞学」金井明人他編『映像編集の理論と実践』(現代社会研究叢書1)、東京：法政大学出版局、pp. 39~64。

鷺見朗子 単著 2008年 “Poetry and Architecture: A Double Imitation in the Siniyyah of Ahmad Shawqi”、*Journal of Arabic Literature* vol. 39 no. 1、pp. 72~122。査読有

西尾哲夫 単著 2007年 「アラビアンナイトの成立と変容」『図説児童文学翻訳大事典』第4巻、児童文学翻訳大事典編集委員会編集(編集代表 川戸道昭・榊原貴教) 東京：大空社、pp. 326~335。

西尾哲夫 単著 2007年 「民博アラビアンナイト・コレクション」『月刊みんぱく』第31巻第6号、国立民族学博物館、pp. 18~19。

杉田英明 単著 2007年 「文学者と旅行家の見た『アラビアン・ナイト』—明治~昭和前期を中心に」『ODYSSEUS』第12号、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻、pp. 1~35。

杉田英明 単著 2007年 『アラビアン・ナイト』原典購読事始—昭和前期におけるアラビア語研究の先達たち』『東洋文化』第87号、東京大学東洋文化研究所、pp. 205~225。査読有

杉田英明 単著 2007年 「語学教材としての『アラビアン・ナイト』—明治~昭和前期を中心に」『ODYSSEUS』第11号、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻、pp. 1~31。

杉田英明 単著 2007年 「中東世界における「二鼠譬喩譚」—佛教説話の西方伝播」『比較文学研究』第89号、東大比較文学会、pp. 68~101。査読有

杉田英明 単著 2007年 「アラビアンナイトの「発見」—ヨーロッパ世界の東方幻想」草光俊雄・宮下志朗編『ヨーロッパの歴史と文化』東京：放送大学教育振興会、pp. 141~154。

小田淳一 単著 2007年 「表現法の変遷—ラテン修辞学からグループμへ」『認知科学』第14巻3号、pp.253~268。査読有  
西尾哲夫 単著 2006年 「アラビアンナイトと中東世界の女性観—カイドの概念をめぐって」『比較文学研究』第87号(中東特輯)、東大比較文学会、pp.3~16。査読有

〔学会発表〕(計72件)

永崎研宣、中道静香 2011年1月22日 『アラビアンナイト・カルカット第2版』アラビア語テキストデータベースの構築とその利用」、情報処理学会・第89回人文科学とコンピュータ研究会(総合地球環境学研究所)

西尾哲夫 2010年12月18日 「アラビアンナイト写本伝承とオリエンタリズム—ワートリー・モンタギュー写本の歴史的再構成の試み」、国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」(国立民族学博物館)

西尾哲夫、小田淳一、岡本尚子 2010年12月19日 「マルドリユス・コレクションのデジタル化報告と今後の研究の展望について」、国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」(国立民族学博物館)

杉田英明 2010年12月19日 「近代日本におけるアリババ」、国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」(国立民族学博物館)

青柳悦子 2010年12月19日 『千夜一夜』の語りofのストラテジー—単独にして多重の声」、国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」(国立民族学博物館)

小田淳一 2010年12月19日 「M.シロンヴァルのモチーフ索引における報酬/懲罰体系のネットワーク構造」、国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」(国立民族学博物館)

鷺見朗子 2010年12月19日 『百一夜物語』の枠物語—美と真実の探求」、国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」(国立民族学博物館)

永崎研宣 2010年12月18日 「テキストデータベースの今日的課題とアラビアンナイト」、国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」(国立民族学博物館)

水野信男 2010年12月19日 「ウム・クルスーム<千夜一夜>について」、国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」(国立民族学博物館)

鷺見朗子 2010年4月9日(招待講演) “The 101 Nights & The 1001 Nights”、April 2001 Literary Activities, Department of Near Eastern Languages and Cultures, Indiana University Bloomington, USA

西尾哲夫 2009年12月17日(招待講演) “The Takarazuka Revue and the Fantasy of “Arabia” in Japan”、国際シンポジウム「

The Arabian Nights: Encounters and Translations in Literature and the Arts」ニューヨーク大学アブダビ校(アラブ首長国連邦)

西尾哲夫 2009年10月11日 「挿絵入りアラビアンナイト写本(マンチェスター大学所蔵写本706)の内容と系統について」、日本オリエント学会第51回大会(同志社大学)

鷺見朗子 2009年10月11日 『百一夜物語』—その起源と内容」、日本オリエント学会第51回大会(同志社大学)

杉田英明 2009年6月27日 「前嶋信次『アラビアン・ナイト』原典翻訳への道」、シンポジウム「井筒俊彦と前嶋信次—日本におけるイスラーム研究の源流を探る」2009年度三田史学会大会(慶応義塾大学)

青柳悦子 2008年7月15日(招待講演) “God and Muslim’s world in the Arabian Nights: How Europeans encountered the Arabic world”、Oxford round table “Allusions to God in Prose and Poetry”, 15 July 2008, at St. Anne College, Oxford (England)

鷺見朗子 2008年4月27日(招待講演) “The Frame Story of the Hundred and One Nights: Departure or Arrival?”、American Comparative Literature Association 2008 Annual Meeting, California State University (Long Beach, CA).

西尾哲夫 2007年9月30日 「アラビアンナイト・モンタギュー写本の系統—新「発見」の断片写本をもとに」、日本オリエント学会第49回大会(関西大学)

杉田英明 2007年10月27日 「駱駝と日本人」、日本中東学会公開講演会「日本のなかの中東、世界のなかの中東: 日常のなかの中東を掘り起こす(3)」(信州大学)

杉田英明 2007年9月28日 「佛教説話の東西伝播: 「二鼠譬喩譚」を中心に」、アラハム的伝統の臨界: 三大一神教の哲学、神学・政治論とその外部の地域文化研究」第4回研究会(東京大学)

青柳悦子 2007年10月29日 “Sujet post-moderne dans les Mille et une nuits, a la lumiere de la vision islamique du monde”、Kantaoui Forum-TJASSST2007 (Tunisia-Japan Symposium on Society, Science & Technology)、Sousse (Tunisia)

〔図書〕(計17件)

鷺見朗子 単著 印刷中 『百一夜物語』東京: 河出書房新社。

西尾哲夫 単著 2010年 『アラビアンナイト—ファンタジーの源流を探る』東京: 日本放送出版協会、175頁。

西尾哲夫、水野信男、堀内正樹 共編著 2010年 『アラブ世界の音文化—グローバ

ル・コミュニケーションへのいざない』東京：スタイルノート、304頁。

西尾哲夫 共訳 2010年『シンドバードの航海記』ポシブル堂書店電子出版  
<http://pbc.on.coocan.jp/necom/ebook/SINDBAD.pdf>

西尾哲夫 共訳 2009年『ガラン版千一夜巻一』ポシブル堂書店電子出版  
[http://pbc.on.coocan.jp/necom/ebook/galland\\_1.pdf](http://pbc.on.coocan.jp/necom/ebook/galland_1.pdf)

西尾哲夫 共訳 2009年『ガラン版千一夜巻二』ポシブル堂書店電子出版  
[http://pbc.on.coocan.jp/necom/ebook/galland\\_2.pdf](http://pbc.on.coocan.jp/necom/ebook/galland_2.pdf)

青柳悦子 単著 2009年『デリダで読む『千夜一夜』』東京：新曜社、616頁。

水野信男 単著 2008年『中東・北アフリカの音を聴く—民族音楽学者のフィールドノート』東京：スタイルノート、248頁。

西尾哲夫 単著 2007年『アラビアンナイト—文明のはざまに生まれた物語』(岩波新書)東京：岩波書店、224頁。

西尾哲夫 編著 2006年 韓国語訳『アラビアンナイト博物館』(原著書は2004年に特別展「アラビアンナイト大博覧会」図録として東方出版より出版)ソウル：時代の窓社。

[その他]

ホームページ等

① 国立民族学博物館ホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/18102001.html>

② 国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」

<http://www.minpaku.ac.jp/research/fr/20101218-19.html>

③ アラビアンナイトデータベース検索サイト

<http://www.dhii.jp/ANs/index.html>

④ アラジン輪舞曲—アラビアンナイトを通して見る中世イスラーム世界

[http://www.jttk.zaq.ne.jp/arabian\\_night\\_s/galland\\_index.html](http://www.jttk.zaq.ne.jp/arabian_night_s/galland_index.html)

⑤ インド洋西域のアラビアンナイト民話

[http://www.aa.tufts.ac.jp/~odaj/contes\\_ocean\\_indien.html](http://www.aa.tufts.ac.jp/~odaj/contes_ocean_indien.html)

研究広報による社会貢献

展示： 国立民族学博物館西アジア常設展示場リニューアルにあわせて、日本の中東イメージやアラビアンナイト受容に関する本研究成果に基づく展示をした。

講演： NHKカルチャーラジオ「文学の世界 アラビアンナイト～ファンタジーの源流を探る」で13回シリーズの講演をおこない、2010年10月～12月にかけてNHKラジオ第2放送で放送された。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

西尾 哲夫 (NISHIO TETSUO)  
国立民族学博物館・民族文化研究部・教授  
研究者番号：90221473

### (2) 研究分担者

杉田 英明 (SUGITA HIDEAKI)  
東京大学・総合文化研究科・教授  
研究者番号：90179143

青柳 悦子 (AOYAGI ETSUKO)  
筑波大学・人文社会科学研究所・教授  
研究者番号：70195171

小田 淳一 (ODA JUN'ICHI)  
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授  
研究者番号：10177230

鷺見 朗子 (SUMI AKIKO)  
京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・教授  
研究者番号：20340466

永崎 研宣 (NAGASAKI KIYONORI)  
東京大学・人文社会系研究科・次世代人文学開発センター・特任研究員  
研究者番号：30343429

水野 信男 (MIZUNO NOBUO)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・名誉教授  
研究者番号：50032511

中道 静香 (NAKAMICHI SHIZUKA)  
大阪大学・言語文化研究科・助手  
研究者番号：30372634  
(H19→H22：研究協力者)

### (3) 研究協力者

中道 静香 (NAKAMICHI SHIZUKA)  
国立民族学博物館・外来研究員  
岡本 尚子 (OKAMOTO NAOKO)  
国立民族学博物館・外来研究員  
堀内 正樹 (HORIUCHI MASAKI)  
成蹊大学・文学部・教授  
森 千香子 (MORI CHIKAKO)  
南山大学・外国語学部・准教授  
マーガレット・シロンヴァル (MARGARET SIRONVAL)

フランス国立科学研究センター (CNRS)・元研究員／国立民族学博物館・元客員教授  
ウルリッヒ・マルツォルフ (ULRICH MARZOLPH)

ゲッティンゲン大学・教授／国立民族学博物館・元客員教授  
ハサン・エルシャミー (HASAN EL-SHAMY)  
インディアナ大学・教授／国立民族学博物館・元客員教授

マリオン・シェネ (MARION CHESNAIS)  
フランス国立科学研究センター・元技官  
ムニール・アラウィー (MOUNIR ALLAOUI)  
レユニオン高等美術学校・教員